**うんぺー考**

**山紫会のHP は一応公開されている場であるから、あまり公序良俗を乱す記述を行うことには筆者にも抵抗はあるが、敢えて読者にお考え頂きたいことがある。それは「うんぺー」こと、トイレットペーパー（以下TPと略す）に関する重要事項である。**

**我が家で使用しているTPは、社長の息子がラスベガスのギャンブルに嵌り数百億円の借金を作った会社製の2枚重ね、114㎜幅X27m長さ、香料付きTPのブランド品である。正確を期すために、トイレに巻き尺を持ち込み測定したところ、長さ22㎝毎にミシン目が入っており、このTPの製造会社の意図としては、その使用目的の大小に拘わらず、22㎝の倍数の長さで切って使うように指導しているものと思われる。**

**紙にミシン目を入れて一定の方向に破り易くしたのは、明治の「郵政の父」と称された前島密が世界で初めて切手にミシン目を入れたのが始まりと言われている。しかしこの時代のTPは現代のそれとは程遠い、縄、葉っぱ、川原の石、良くて新聞紙などであったから、TPにミシン目を入れたのが前島密でないことだけは確かである。もしかしたらギャンブル狂の親父さんかもしれない。**

**お盆から1週間遅れで我が家に集まった個性豊かな私の子供達その連れ合い及び孫達合計7名のTPの使い方が、余りにも常識はずれなため、彼らが滞在している間中、私の精神はズタズタにされ、眠れない夜が続いたので、一応山紫会の会員諸君にその報告と、本来TPはどのように使われなくてはならないかを考察し、与太噺としてここに記す。**

**私は、決して神経質な方ではないが、我が家に滞在した連中の使用後にトイレに入ると、嫌でもTPの破り方の異常さが目に付く。**

**先ず、長男の破り方は、甲州弁で「ぶっちゃばく」と言う表現が当て嵌まる、切り口がギタギタで、ミシン目などお構いなしの破り方である。**

**長女は、ケチは美徳と言う考えをTPにまで適用し、TPカバーの蓋の縁を定規のように使って破いてある。確かに切り口は長手方向に対して直角になってはいるが、柔らかい紙であるが故に、紙の切り端がその下の紙と同化してくっついてしまい、用が終わってTPを引っ張り出すためにロールを回してもクルクル回るばかりで紙の端がなかなか出てこないでイライラさせられる。**

**次は小5の孫娘であるが、どう考えてもTPを握って引っ張り出し、両手で握ってエイっと引きちぎるらしい。紙の端が捩じったように丸まっており、切り口はぼさぼさになっている。想像するに彼女はTPを掌で団子を丸めるようにして使っているのではないだろうか。**

**小2の孫娘はロールをセットするときに、紙の端が手前側でなく裏側に出るようにしてしまったため、私はトイレの中で下に長く出ていたTPを一度巻き戻し、左右を逆にリセットすることになってしまった。この子の学校の成績は良いと母親(つまり私の娘)は言っていたが、学校の成績とTPの使い方には相関関係がないらしい。**

**斯様に私の神経を逆なでするTPの破り方の多様性に対し、家長であり親でもある私は、全員が揃った朝食時に、TPの破り方、使い方についての見解を披歴した。**

**「まず、自分が使う長さ、プラス15㎝位をロールから引っ張り出し、ミシン目がロールの蓋から10㎝位の所で紙の下側を掴み、蓋を抑えながら下に引くとミシン目から綺麗に切れ、且つ次の人が紙を引っ張り出すのに都合が良い。お父さんの経験ではミシン目3個分、つまり66㎝位が適当な長さであり、それを超えると不経済であり、それより短いと不衛生である。今後は我が家の家訓としてこのことを覚えておきなさい。」**

**我が家の反応は下記の如し。**

**長女「お父さん、ご飯時にトイレの話なんかしちょし。」彼女は生粋な横浜生まれの横浜育ちなのに、山梨の会社に就職し5年くらい住んでいただけで、甲州弁を使いこなす娘である。**

**長男「トイレは古来三考所と言われ、馬の鞍の上、枕の上および厠の中が物事を思索するときに一番適した場所と言われている。だから俺はトイレに必ず本を持ち込み思索にふけっているから、TPを破るときに両手は使えない。その破り方が少々醜くても世の中の大勢には影響がないんじゃないの？」**

**次女「TPの破り方なんかどうでもいいじゃん。余り硬いこと言っちょし。」彼女も人並みに甲州弁を話す。性格は私に似て一番大らかで好い加減である。**

**小5の孫娘「ジーコ（彼女は私のことをそう呼んでいる）の言う通り、いまから私は紙をたたんでミシン目の所で切るようにするね。」二人の孫娘は次女の子供であるが、この子は私の目の中に入れても痛くないほど可愛い、気立ての良い子である。**

**朝食会の結論としては、「好きなようにすればいいじゃん。」だったが、良く考えるとその通りだと思う。**

**孫たちの学校が始まる前日、つまり8月26日に、発つ鳥後をぐちゃぐちゃに濁して帰る間際に、小5の孫娘が「トイレに行ってから帰る。」と言って用を済ませ、「ジーコ、バイバイ。」と言いながら、帰って行った。**

**一寸寂しくなったけど煩いのが居なくなってせいせいして解放感に浸り、トイレに入ったら、ロールのカバーから10㎝下側にミシン目から綺麗に切られたTPがみえた。それを見たら何だか急に一人身の寂しさを感じた。**

 **完**